

# 3年道德通信

第34号

## 第34回『出会いの輝き』

1950年代、哲学者の今道友信さんはフランスやドイツの大学で研究していました。帰国が決まったとき、フランスの哲学者マルセルから「人間が人間に贈ることのできる最善の贈り物とはいい思い出です。」と言われました。50年たった今でもその言葉が彼の「心の宝物」として、どんな品物にも及ばないものになっているそうです。

留学時代の恩師や仲間との交流を回想した随筆から思いやりや感謝の気持ちについて考えました。



### みんなの意見

これまでにもらった「いい思い出」には、どんなものがありますか？

- ・塾の先生との思い出です。誰とでも互いに影響し合えるような人で、勉強以外に人として大切なことを学んだ気がします。妙にいい人ぶったりせず、素で教えてくれたから、特別なものをもらうことができた。
- ・ものをもらってもうれしいけれど、気持ちを受け取った方が後に残るし、うれしい。
- ・いい思い出は知らないうちにたくさんもらっている。いい思い出を作るには感謝の気持ちとかが必要だと思う。
- ・行ったことのない場所に友達と行くこと。初めて行く場所だから記憶にも思い出にも残る。
- ・最善の贈り物と言われて、まず思い浮かんだのは「感謝の気持ち、言葉」でした。自分ひとりで生きていると思っていても、たくさんの人が関わっているから。
- ・友達と遊んだこととか、学校の行事が思い出です。自分にとっても相手にとってもいい思い出にするには、友達と遊ぶときには思いっきり楽しんだり、笑い合ったりする。行事でもいろんな人と団結したり協力したりして、ひとつのものに向かって努力することで、いい思い出になると思います。
- ・私の思い出は、友達や家族など、たくさんの人と過ごす日々です。
- ・自分がもらったいい思い出は本当にたくさんあるし、「いい思い出」をくれた人に感謝しないとけないなと思った。
- ・皆で先生に叱られて、クラスの雰囲気はどんどん変わっていったこと。行事を通して皆と仲良くなっていたこと。普通にみんなとしゃべれるようになって認められた気がした。

「いい思い出」とは、私たちの  
どんな言動からできていくのだろう。

